

第4回心の先端研究ユニットコロキウム

日程：2016年12月15日（木） 12：15～13：15

場所：京都大学吉田キャンパス 総合研究7号館 情報2(101)講義室

演題1「潜在学習の課題依存性」

樋口 洋子（情報学研究科 特定研究員）

「ヒトは何かを学習しようという意図がないときにも、気がつかないうちに視覚場面の情報を学習している。これまでの研究では、物体のレイアウトや形など様々なパターンが潜在的に学習されるということが明らかにされてきた。しかし、膨大な視覚場面の情報から、ヒトがなにを優先的に学習するのか、なにが潜在学習を左右するのかということには未解明の点が多い。本研究では、ヒトが現在行っている「課題」が、潜在学習を左右する可能性を検討し、課題に関係している情報が優先的に学習されていることの証拠を提出した。この結果は潜在学習過程が私たちの行っている行動やその目的の影響を受けていることを示唆する。」

演題2「局所的な流暢性の差が引き起こす探索非対称性」

山下 純平（情報学研究科 大学院生）

「視覚非対称性とは、視覚探索課題において、刺激Aを刺激Bの中から探す時と、ターゲットとディストラクタの役割を入れ替えて刺激Bを刺激Aの中から探す時の間で、探索効率が異なる現象のことである。従来、探索非対称性を引き起こす要因としては1) (全体の) 信号強度の差による要因と2) 既知性の差による要因が考えられてきた。本研究では、局所的な流暢性の違いによって探索非対称性が生じることを報告する。具体的には、ディストラクタの流暢な部位が刺激要素の上部にあることで、探索効率が向上することが明らかとなった。これは、上記2要因を含めた既知の探索非対称性とは異なる機序で生じると考えられる。ここでは、この未知の要因による探索非対称性のメカニズムについて考察する。」